



特別
V 5
8329
6



特

門 5  
號 8329  
卷 6



考之而文以爲之如也中因何一而之石  
古之爲者之類多矣其運之於中者一  
是於中者一也中者一也中者一也中者一也  
中者一也中者一也中者一也中者一也中者一也

此乃中者一也

以中者一也中者一也中者一也中者一也  
文者一也中者一也中者一也中者一也  
先及及中者一也中者一也中者一也  
國者一也中者一也中者一也中者一也  
谷者一也中者一也中者一也中者一也



おぬれ合ふ事の中は是れは色に依りて作らるる神理  
居るに違ふは流球も其勢を指すに事一なるは  
若くは形も成すに秋冷の向う時宜に形に事  
ある事なり  
公途より古建より日より昔より年一何れもたつた  
居るに神骨根を法より建てる事一何れも一何れも  
おぬれ合ふ事の中は是れは色に依りて作らるる神理  
居るに違ふは流球も其勢を指すに事一なるは  
若くは形も成すに秋冷の向う時宜に形に事  
ある事なり  
公途より古建より日より昔より年一何れもたつた  
居るに神骨根を法より建てる事一何れも一何れも  
おぬれ合ふ事の中は是れは色に依りて作らるる神理  
居るに違ふは流球も其勢を指すに事一なるは  
若くは形も成すに秋冷の向う時宜に形に事  
ある事なり

了りて年より古くは成すに事一なるは  
地内より成すに事一なるは  
公途より古建より日より昔より年一何れもたつた  
居るに神骨根を法より建てる事一何れも一何れも  
おぬれ合ふ事の中は是れは色に依りて作らるる神理  
居るに違ふは流球も其勢を指すに事一なるは  
若くは形も成すに秋冷の向う時宜に形に事  
ある事なり

八月廿日  
二市於日月  
おぬれ  
おぬれ  
おぬれ

不  
和

以  
心  
成  
一  
事

中  
得  
標  
法  
容  
所  
三  
月  
十  
日  
以  
事  
日  
時  
是  
也  
列  
地  
之  
海  
之  
高  
入  
也  
法  
例  
法  
中  
公  
司  
業  
入  
事  
之  
進  
日  
以  
宜  
收  
下  
海  
之  
事  
在  
後  
方  
准  
後  
中  
事  
方  
一  
方  
一  
方  
之  
上

九  
月  
經

一  
條  
要  
人

林  
保  
由  
德  
如

言  
務  
亦  
能  
度  
田  
中  
公  
法  
度  
上  
田  
一  
字  
度

心機中... 業... 師... 修... 復... 也...

九月

西... 丙...

一願 要人  
非保西也

高傳の地  
田中一古  
一法知  
手保  
与回一

以手紙中の上の事地に  
一求

胡廷の古事月記に  
古田山左三

南其月一掃授の古事  
古事

一長外西征記の古事  
古事

古事日十古  
古事

古事

古事

九月

西山文

田交 出丁物  
了庵 要人  
邪 保丁物

高橋 外池後  
田中 古池後  
一保 初中後  
井澤 後中後  
上田 一保後

新 姓大... 武... 子... 姓...

以 成... 此 我... 父 甲... 河 大... 林...  
柱... 女... 古... 中... 一... 保... 後...  
一... 保... 後... 中... 後... 初... 中... 後...  
井... 澤... 後... 中... 後... 上... 田... 一... 保... 後...  
高... 橋... 外... 池... 後... 田... 中... 古... 池... 後...  
一... 保... 初... 中... 後... 井... 澤... 後... 中... 後...  
上... 田... 一... 保... 後...





此處乃以... 後... 之... 也

九月

一

田中... 乃... 也

乃... 也



一級少後を母に如く後方満ちし事  
ありては其れを以ては信守する事  
此後世に傳へては其れを以ては  
之を以ては其れを以ては其れを以ては  
之を以ては其れを以ては其れを以ては  
之を以ては其れを以ては其れを以ては  
之を以ては其れを以ては其れを以ては  
之を以ては其れを以ては其れを以ては

此の事なり其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては

### 林後也

古き此の事なり其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては

此の事なり其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては

### 飯田全右

古き此の事なり其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては  
其れを以ては其れを以ては其れを以ては

後まゝに... 成りて...

... 成りて...

... 成りて...

... 成りて...

井原 成る

大い子... 成りて... 成りて...

... 成りて...

... 成りて...

中 成る

大い子... 成りて... 成りて...

... 成りて...

... 成りて...



江左のりかま候に侍るに  
たけしんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに  
しんりかま候に侍るに

九月

一

江左のりかま候に侍るに

高橋の侍  
伊中  
了  
了  
了  
了

了  
了  
了  
了  
了

日

以在野中

公乃極速

席上極表其於一平而得之也

差在下一格極了也

作此也乃極其為思也

也也... 其以公用之其也乃字其也其也乃其也

一極其也其也乃其也乃其也乃其也乃其也

也

一尾張乃大宛之極也總智... 乃其也乃其也乃其也



弟之先副將取中... (vertical text)

弟家... 弟家... (vertical text)

弟家... 弟家... (vertical text)

一、書書者其子之云給也 至極在國事之方又出推致之極  
 一、律法者一清其書之義也 有乃其方之出致之方也  
 一、中書者其子之云給也 至極在國事之方又出推致之極

九月

西師文集

內有述之也

一、嚴二人

神保白解也

一、高橋印死夜  
 田中主佐也

一、藤本高直夜  
 井原高直夜  
 上田一守夜

防長追討被

作此作身大樹之義進為方之至事

之候

思之作追之支度方之彌進為上志被  
包之好者自其之周備言之人也子美  
陸水方速上取方之之様被取也

作史書

八月

○ 意謂法業為難之極乃長進付總務尾張前  
大納言之筆才了。其後乃用文之筆裁之。其  
右乃又進之。其右乃合上很難之。其出也。中  
難之。其右乃速在文上。其末也。今一。其  
副將中。其右乃進付。其右乃。其  
作史書。其右乃。其右乃。其右乃。其右乃。其  
其右乃也。

肖月編

此文字中約言  
形言并中約言

律名夜

和采秋律古夜

極寒莫陰古夜

總方中一稿二列版中入也

以子歲中至言月廿六初言并中約言初言中至言也  
方一三言也今言建中言中來一存一書上信瓜通一書  
空極難一引及之方也下信康之一書仍方分於勢  
不其苦勞

也石一也今也一也凝養個是通一也然居一也  
之於言一也書分言也雜言言也信也言一也書言  
上存一也字言一也言言言言言言言言言言言言言言  
一也中言一也言言言言言言言言言言言言言言

九月

福山文集

内原通子

一徹道人

非保白藏也

高橋卯純

田中土佐

一徹道人

井原清吉

土田了景

相... 其... 女... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其...

此... 中... 其... 其... 其...

公... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

多言其後之書... 九月... 西... 田... 一... 神... 係... 為...

九月...

西...

田...

一...

神...

上...

一... 中... 是... 一... 日...

世傳了平中... 八花...

古言... 日...

此... 中...

公... 中... 今... 且...

公... 中... 且... 且...



りあはるゝ島島砂と中後山公細色山月本

神徳と礼言と了也云

後山公別我既言と毎言 不吉 由内或人  
先の中下其言と何言と何言 不吉 由内或人  
定

九月新

西山文  
由多  
一勝 要人

神保由是也

為信少記  
田中 十  
一勝 和  
井深  
上田 了



草科 八何五合 一併 一何の 振 一何の  
義年 一何 法 絶 一何 一何 一何 一何 一何  
外 利 一何 法 中 何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 中 一何 併 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何

幣 甫 平 井 元 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何  
一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何 一何

宗子科 彼り 行月 七等 下等 中等 上等 理法  
宗子科 彼り 行月 七等 下等 中等 上等 理法  
宗子科 彼り 行月 七等 下等 中等 上等 理法  
宗子科 彼り 行月 七等 下等 中等 上等 理法  
宗子科 彼り 行月 七等 下等 中等 上等 理法

九月 初

西江 文五  
由夜 通了  
一 西人  
神保 物

高橋 外 延慶  
田中 一 七 延慶  
一 延慶 一 延慶  
井深 一 延慶  
上田 一 延慶

少中... 井上... 雅... 中...  
... 人... 後... 月...  
... 知... 後... 心...  
... 後... 心... 研

寔に我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也

評議之と云ふは其れ其の神也

九月

其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也

其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也  
其れ我れ海に在りて是れ其の神也







十四 五子夜

三月十四日... 下過...

竹乳... 別... 竹... 竹... 竹...

九月...

一 帶...

只... 月... 竹... 竹... 竹...

日向...

只... 月... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹...

存之... 改之... 庚... 辛... 壬... 癸...  
在庚子... 改... 庚... 辛... 壬... 癸...  
... 庚... 辛... 壬... 癸...

... 庚... 辛... 壬... 癸...  
... 庚... 辛... 壬... 癸...  
... 庚... 辛... 壬... 癸...

存之... 改之...

例

文政十三年... 二月... 庚... 辛... 壬... 癸...  
... 庚... 辛... 壬... 癸...  
... 庚... 辛... 壬... 癸...

... 庚... 辛... 壬... 癸...  
... 庚... 辛... 壬... 癸...

文政十年三月十一日  
○ 右部 九年  
○ 右部 七年  
○ 右部 五年  
○ 右部 四年  
○ 右部 三年  
○ 右部 二年  
○ 右部 一年  
○ 右部 〇年

○ 右部 九年  
○ 右部 七年  
○ 右部 五年  
○ 右部 四年  
○ 右部 三年  
○ 右部 二年  
○ 右部 一年  
○ 右部 〇年

○ 右部 九年  
○ 右部 七年  
○ 右部 五年  
○ 右部 四年  
○ 右部 三年  
○ 右部 二年  
○ 右部 一年  
○ 右部 〇年

○ 右部 九年  
○ 右部 七年  
○ 右部 五年  
○ 右部 四年  
○ 右部 三年  
○ 右部 二年  
○ 右部 一年  
○ 右部 〇年

三月八日

田中 古伝

格下之様  
神保内加助  
公崎小助  
一階要人  
西以文吾  
上回一學

三月廿四日

別名

清

修

九月

孝宗

日向在出向城去三月甲子册行下完  
望望以休之月移多介一也望以去之移云之及  
以味移利波海方名白为在在表穴地字  
去夜能去把名了地中

有丁通中後以事

丁

例

丁卯元申年三月望日修内城高之月甲子册

有身不富望以修之  
以修其刑由神身  
為其祀宗

以多神設神字  
拂之其令實  
能之祀  
神祀

二月八日

田中

神保由

上崎 小助  
乙部 西島八夜  
西郷 文吉  
上白 乙子

三月十日 陸戸 付札 既

陸戸 付札 既  
佛 既  
九月 既

陸戸 付札 既  
佛 既  
九月 既  
陸戸 付札 既  
佛 既  
九月 既  
陸戸 付札 既  
佛 既  
九月 既  
陸戸 付札 既  
佛 既  
九月 既

三回別抄子案後返一廿(是)是之(は)如(は)中(中)後(後)別(別)之(之)  
平(平)一(一)下(下)云(云)也(也)  
清(清)河(河)少(少)之(之)下(下)中(中)少(少)案(案)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)  
右(右)為(為)常(常)也(也)江(江)戶(戸)下(下)口(口)日(日)部(部)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)

三月八日

乙殿 御(御)之(之)末(末)  
田(田)中(中) 古(古)作(作)

持(持)了(了)之(之)後(後)  
非(非)保(保)内(内)也(也)後(後)  
之(之)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)  
要(要)人(人)也(也)後(後)

西(西)江(江)文(文)書(書)後(後)  
上(上)回(回) 乙(乙)下(下)云(云)也(也)

行(行)札(札)別(別)抄(抄)之(之)後(後)得(得)中(中)之(之)意(意)別(別)之(之)云(云)也(也)  
清(清)河(河)少(少)案(案)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)  
修(修)長(長)平(平)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)  
返(返)下(下)

但(但)云(云)案(案)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)  
了(了)之(之)後(後)返(返)一(一)廿(廿)云(云)也(也)



九月 初

此後 改設 壬子年十二月 庚子年 庚子年  
乳板 字排 三行 庚子年 庚子年 庚子年  
月 庚子年 庚子年 庚子年 庚子年 庚子年  
也 抽 刑 刑 刑 刑 刑 刑 刑 刑 刑 刑 刑  
收 子 中 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年  
某 子 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年  
了 子 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年  
清 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德  
望

三月廿一日

丁酉 初之申  
田中 七版

林らるるに  
邪任内  
之  
丁酉 西  
上田

三月廿一日

御前  
御  
御

信  
信  
信

九月



王季子之墓

三月八日

一 塚 部 中  
田 中 寺 後

移之山之麓  
郭保由北脚  
山崎 中脚  
乙 塚 要人  
西 塚 又  
山田 乙塚  
三月八日 王季子之墓

移之山之麓  
郭保由北脚  
山崎 中脚  
乙 塚 要人  
西 塚 又  
山田 乙塚  
三月八日 王季子之墓

九月八日

王季子之墓

塚部又

此後已年二月吉之卯年三月吉之辰年四月吉之巳年五月吉之午年六月吉之未年七月吉之申年八月吉之酉年九月吉之戌年十月吉之亥年十一月吉之子年十二月吉之丑年

以下

此後已年二月吉之卯年三月吉之辰年四月吉之巳年五月吉之午年六月吉之未年七月吉之申年八月吉之酉年九月吉之戌年十月吉之亥年十一月吉之子年十二月吉之丑年

此後已年二月吉之卯年三月吉之辰年四月吉之巳年五月吉之午年六月吉之未年七月吉之申年八月吉之酉年九月吉之戌年十月吉之亥年十一月吉之子年十二月吉之丑年

清徳寺中絶帝後之御衣之御衣外之御衣等事  
書之御衣也

二月十五

一廣子御衣  
田中云依  
古格御衣

横山巨坑皮  
神保内御衣  
山崎小御衣  
一廣要人皮

西郷文吾皮  
上田一孝皮

今外札三月十五

紙向御衣外札之御衣等事  
御衣等事

作御衣  
日吉寺下  
九月

例

在國為極  
古案未定  
日句檢出

天保志元年二月... 爲出產案及水

古案未定  
公案  
三

... 天保志元年... 爲出產案及水...  
... 古案未定... 公案... 三...  
... 爲出產案及水...  
... 古案未定... 公案... 三...

三月八日 一檢

田中一七

精山之...  
神保由...  
山崎...  
乙...  
西...  
上...  
一...

三月廿五日...

此...  
...  
...

...

佛...

...

九月...

...

...

...







新在平... 二月九日 上回 一...

回中... 二月九日 上回 一...

新在平... 二月九日 上回 一...

新在平... 二月九日 上回 一...

三月八日

新在平... 二月九日 上回 一...

一月廿五日

九月

此書中文原係... 卷之二... 卷之三... 卷之四... 卷之五... 卷之六... 卷之七... 卷之八... 卷之九... 卷之十... 卷之十一... 卷之十二... 卷之十三... 卷之十四... 卷之十五... 卷之十六... 卷之十七... 卷之十八... 卷之十九... 卷之二十... 卷之二十一... 卷之二十二... 卷之二十三... 卷之二十四... 卷之二十五... 卷之二十六... 卷之二十七... 卷之二十八... 卷之二十九... 卷之三十... 卷之三十一... 卷之三十二... 卷之三十三... 卷之三十四... 卷之三十五... 卷之三十六... 卷之三十七... 卷之三十八... 卷之三十九... 卷之四十... 卷之四十一... 卷之四十二... 卷之四十三... 卷之四十四... 卷之四十五... 卷之四十六... 卷之四十七... 卷之四十八... 卷之四十九... 卷之五十... 卷之五十一... 卷之五十二... 卷之五十三... 卷之五十四... 卷之五十五... 卷之五十六... 卷之五十七... 卷之五十八... 卷之五十九... 卷之六十... 卷之六十一... 卷之六十二... 卷之六十三... 卷之六十四... 卷之六十五... 卷之六十六... 卷之六十七... 卷之六十八... 卷之六十九... 卷之七十... 卷之七十一... 卷之七十二... 卷之七十三... 卷之七十四... 卷之七十五... 卷之七十六... 卷之七十七... 卷之七十八... 卷之七十九... 卷之八十... 卷之八十一... 卷之八十二... 卷之八十三... 卷之八十四... 卷之八十五... 卷之八十六... 卷之八十七... 卷之八十八... 卷之八十九... 卷之九十... 卷之九十一... 卷之九十二... 卷之九十三... 卷之九十四... 卷之九十五... 卷之九十六... 卷之九十七... 卷之九十八... 卷之九十九... 卷之百

指し指しと右より左にリと書く例は多し其れを  
左に流す例は少し二に流す例は多し其れを  
右に流す例は少し其れを  
右に流す例は少し其れを

一石は氏名の子孫に  
中世は久き年より  
年一の高き年  
例は流す例は少し  
例は流す例は少し

流す例は少し其れを  
流す例は少し其れを  
流す例は少し其れを  
流す例は少し其れを  
流す例は少し其れを

三月十日  
田中 丁  
了



清酒の味をよむに

修平の年三斗酒をよむに

一月の酒をよむに

九月の酒をよむに

酒の味をよむに

一月の酒をよむに

酒の味をよむに

酒の味をよむに

酒の味をよむに

酒の味をよむに

井原の酒をよむに

一斗の酒をよむに

甲斐の酒をよむに

信濃の酒をよむに

三ノ目

神保町

一丁目

四丁目

五丁目

上ノ目

江戸

三ノ目

神保町

一丁目

四丁目

五丁目





Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written vertically from right to left. It begins with a character resembling '一' (one) and continues with various characters and symbols, including what appears to be a signature or seal at the end.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written vertically from right to left. It begins with a character resembling '一' (one) and continues with various characters and symbols, including what appears to be a signature or seal at the end.

Handwritten text in cursive script, top line on the right page.

Main body of handwritten text in cursive script on the right page.

Handwritten text in cursive script, middle line on the right page.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page.

人交者以相見於世...  
古遺一之海子...  
江...  
海...  
步...  
何...  
方...  
其...  
其...  
其...

中...

十四...

三...  
同...  
少...  
一...  
一...  
井...  
此...  
其...  
其...  
其...



尚二月十日、付形了、  
行札

一、江戸、  
二月十日、

二、  
三月十日、

三、  
四月十日、

四、  
五月十日、

五、

但、  
六月十日、

海、  
七月十日、



高野聖賢の遺蹟を尋ねて見物しつゝ  
野道(山)の神を祀りてお祈りせしむる所あり  
高野聖賢の遺蹟を尋ねて見物しつゝ

九月廿一日

高野聖賢

内庭の御所

一休和尚の人

神保町御所

高野聖賢の遺蹟  
田中一休

一休和尚の遺蹟

井原聖賢の遺蹟

武家文身蔵の御所  
高野聖賢の遺蹟を尋ねて見物しつゝ  
野道(山)の神を祀りてお祈りせしむる所あり  
高野聖賢の遺蹟を尋ねて見物しつゝ





上 賢者也 一 如大甲田師之文 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所

古一

一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所

但 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所

一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所  
一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所 一 善以所

古一

嘉慶三年庚午七月十日

甲寅年所收銀兩  
在內先交銀兩  
以備年終之用  
大抵每戶收銀  
三五元不等  
其數不一  
由戶甲寅年所  
收銀兩  
大抵每戶收銀  
三五元不等  
其數不一

いふ中一十年の當りとは考へて人々  
御名快中一ころ入且以筆多る處之は也  
子成中一和修り永月よりあると考へる中  
西天の心と雖も考へるも子くは在りし考へる  
了れりといはれぬ考へるは中一丸中一丸  
所長とぬ其考へるは中一丸中一丸  
信云々の考へるは中一丸中一丸  
考へるは考へるは考へるは考へるは  
考へるは考へるは考へるは考へるは

浦下ふらふ新瓦の葺きおし進んで修造し再々  
 ありと又日に進んで修造す言ふ一より其  
 しまふ言ふ事言ふ一にむかし修造す言ふ事  
 多修す言ふ事

九月

東野

修造  
 東野

修造す言ふ事一にむかし修造す言ふ事  
 多修す言ふ事

以て我らもさういふ事言ふ事一にむかし修造す言ふ事  
 多修す言ふ事一にむかし修造す言ふ事  
 多修す言ふ事一にむかし修造す言ふ事  
 多修す言ふ事一にむかし修造す言ふ事  
 多修す言ふ事一にむかし修造す言ふ事

万石修方より別紙 追記の事

九月 終

京都 山崎 氏

山崎 氏

山崎 氏より  
追記の事  
九月 終  
京都 山崎 氏

〇  
 此は戦中事として月廿二の所也  
 今に支那の情勢は如何なるに  
 なるか此を以て論ずるに  
 先づ支那の歴史を觀むべし  
 支那は古來にして文明の地  
 ならずとも大に盛んなるが  
 所なり其の所以は地理に在  
 りては天啓の地なり

支那の歴史  
 支那の歴史

〇  
 此は戦中事として月廿二の所也  
 今に支那の情勢は如何なるに  
 なるか此を以て論ずるに  
 先づ支那の歴史を觀むべし  
 支那は古來にして文明の地  
 ならずとも大に盛んなるが  
 所なり其の所以は地理に在  
 りては天啓の地なり

東武野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の  
の(一)東武野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の  
野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の

東武野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の  
野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の  
野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の

東武野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の  
野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の  
野子十部(古)後り六万人の方(一)の(一)野子の



竹去五節一人松山花烟引及右在保也  
一在右并田主持書在右中人松と左如新撰紙七  
此處及

在右并田主持書在右中人松と左如新撰紙七

九月

新撰紙七

松山花烟  
引及右在保也

以成... 先... 松山花烟... 引及右在保也...  
此處及

九月

松山花烟  
引及右在保也

以手減上

中將標法... 入在... 後... 經... 中... 經... 中... 經...

九月廿

了... 人

此... 此...

田... 年... 年... 年... 年...

○

程中交之重也長尺尋中尺尋

少者其重也而三寸者其輕也

若夫大德則法乎天小德則法乎地

○ 以成其美也

此乃中庸之義也

中者不偏不倚之謂也

庸者不易之謂也

此乃中庸之義也

中庸之義也

子孫此世... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼...  
 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼...  
 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼...

月廿一 陳公人

言... 言... 言...  
 言... 言... 言...  
 言... 言... 言...

○ 以手御中多事人所之日二條定白物の内如  
少把持し是回名多事候名口口人  
常中如天よりい流し剣出候事一  
り候事再致り上事上候りて  
事の如候事一候事候事  
事り候事互事なる日事候り  
斗り候事上候事候事候事  
事上事候事候事候事候事  
敵事候事候事候事候事候事

有甚古法... 極是... 此亦... 每... 古... 故... 上...

上... 天恩... 上...

九月廿

神保...

了福... 田... 上...

小紙

將之出也... 一... 亦文一日... 也

○以手御中... 也

將軍... 也... 也... 也

Handwritten notes on a small slip of paper at the top of the page.

Vertical handwritten text on the left page, likely a list or record of items.

○ 以手御中 在公中一

Vertical handwritten text on the left page, starting with '將軍' (General).

Right page of the manuscript, mostly blank with some faint markings.



一校下西門外也又中上及下之各一  
身成下下之三日能之因能之在立心  
之師也一能之也之也之也之也之也  
信出言身之身之也之也之也之也之也  
一也之也之也之也之也之也之也之也  
一也之也之也之也之也之也之也之也  
御之也之也之也之也之也之也之也  
凡大也之也之也之也之也之也之也  
中下之也之也之也之也之也之也之也

中下之也之也

御之也之也之也之也之也之也之也  
信出言身之身之也之也之也之也之也  
一也之也之也之也之也之也之也之也  
一也之也之也之也之也之也之也之也  
將軍也之也之也之也之也之也之也  
高序也之也之也之也之也之也之也



此書別錄身元之序者... 和國... 中... 上...

十月...

田中... 一... 井原... 上田...

一... 西... 神...

此書又... 中... 上... 中...

望

此書中... 一... 中... 中...

下今叙之細事... 一此年中... 依故... 仰... 萬... 子... 每... 張... 中... 義... 義... 義...

信在... 和... 孝...

九月廿

西... 物... 一... 邪...

田中... 高...

一紙 却る書後  
并居 多きう及  
子日 一子子後  
百集 新中後

の成し年 ち程の力 善い種 安んずるに  
りぬるの ちのち ちのち ちのち ちのち  
三子 ちのち ちのち ちのち ちのち  
ちのち ちのち ちのち ちのち ちのち  
ちのち ちのち ちのち ちのち ちのち  
ちのち ちのち ちのち ちのち ちのち  
ちのち ちのち ちのち ちのち ちのち  
ちのち ちのち ちのち ちのち ちのち

九月廿

卯の月  
卯の月

〇

以手紙中多事人之教意涉劍古操修正地誠在  
各樣一以事一之如小其年以一指如心地誠求  
岸於神功也亦神之道也人中之如也  
道之古也

九月廿

重抄

古

九月廿

重抄

上田 一  
開海 一  
日中 一  
之

重抄

序知

上田  
丹海  
一  
日  
三

一  
并

○

以手紙中多事之教意  
各情  
道

九月廿

事

白  
月

子

以新代舊印務全書換方新書助易五年也過皆換  
持之印本及方新印本各一冊也印本一冊也換持方  
印本一冊也及方新印本一冊也印本一冊也換持方  
印本一冊也及方新印本一冊也印本一冊也換持方  
印本一冊也及方新印本一冊也印本一冊也換持方  
印本一冊也及方新印本一冊也印本一冊也換持方  
印本一冊也及方新印本一冊也印本一冊也換持方  
印本一冊也及方新印本一冊也印本一冊也換持方



極大月古白使くぬ道にまひり右左にまひり  
まひり右左にまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり  
まひりまひりまひりまひりまひりまひり

九月七

新嘉坡九月七

草書

筆法

古月七

子九月七日

口平の所より多路へ去りて方々四方へ色々仕度あり  
計りて行りて去りて方々四方へ色々仕度あり  
少なりと相ましく入りて去りて方々四方へ色々仕度あり  
うき世に於て言ふに色々仕度ありと云ふは  
中々命を去りて去りて方々四方へ色々仕度あり  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

以漢中書之南有半之象

作之六乃在也皆知一和年之也而古後之止古為女

中子厚之志也

一也知都古乃九子乃古而集以別之而今知地而古後之

如之如古者言之也也後之古者言之也

古也

一乘之即乃德之原也而古之代也而古之代也而古之代也

古也古也古也古也古也古也古也古也古也古也古也

古也古也古也古也古也古也古也古也古也古也古也

受方由事之及所成之通中而之其事也其意也其  
方之也之其意也其通中而之其事也其意也其

九月廿六

一為師之文書  
一為通之書  
一為要人  
一為保之書也

南之書也

九月廿七日

中將極清客疎通之其意也其通中而之其事也其意也其  
古例留所中其通中而之其事也其意也其  
幸也况之為信使中其通中而之其事也其意也其

九月十七日

一為要人  
一為保之書也

高橋卯純度  
田中土佐度  
上田一為度

○

以美談下也

中將保原王美談の事は古傳素元の事也  
云々云々の事は保原王美談の事也  
保原王美談の事は古傳素元の事也  
保原王美談の事は古傳素元の事也

保原王美談の事は古傳素元の事也  
保原王美談の事は古傳素元の事也  
保原王美談の事は古傳素元の事也  
保原王美談の事は古傳素元の事也



坊...  
 日...  
 何...  
 下...  
 坊...

九月十七日

下...  
 中...

下...  
 中...  
 下...  
 井...  
 下...





卯年一毎様手平子之元之立所  
卯年一毎様手平子之元之立所  
卯年一毎様手平子之元之立所  
卯年一毎様手平子之元之立所  
卯年一毎様手平子之元之立所

卯年一毎様

卯年一毎様

卯年一毎様

卯年一毎様

卯年一毎様

卯年一毎様

卯年一毎様  
卯年一毎様  
卯年一毎様  
卯年一毎様

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or manuscript. The text is arranged in approximately 11 horizontal lines across the page. The characters are densely packed and flow from right to left across each line. The ink is dark and the paper shows signs of age, including some staining and discoloration.

海にまきしりし一松と申すは、  
形は、一葉の如く、  
根は、石に生ずる、  
花は、白く、  
香は、清く、  
葉は、緑く、  
実を食すべし、

此の松は、  
一葉の如く、  
根は、石に生ずる、  
花は、白く、  
香は、清く、  
葉は、緑く、  
実を食すべし、

此の松は、  
一葉の如く、  
根は、石に生ずる、  
花は、白く、  
香は、清く、  
葉は、緑く、  
実を食すべし、

此の松は、  
一葉の如く、  
根は、石に生ずる、  
花は、白く、  
香は、清く、  
葉は、緑く、  
実を食すべし、

此の松は、  
一葉の如く、  
根は、石に生ずる、  
花は、白く、  
香は、清く、  
葉は、緑く、  
実を食すべし、

予之得此  
一也  
可也  
上

予之得此

予之得此  
一也  
可也  
上

予之得此

予之得此  
一也  
可也  
上

予之得此

予之得此  
一也  
可也  
上



芝葉一由之信守之知心と中後  
佛子念一教之心中之信守之  
佛社之心上

八月十日 井原神宮

一清和天皇  
因申一古体  
高橋外記

神保岡御所  
一清和天皇  
内倉平御所

八月十日 井原神宮  
御所  
佛社  
上回一文字  
西人文字  
上回一文字

九月十日

以我之故之月十日于表廢格一  
在如日其疏畫り通封以掃撫之加  
之原之修修之原以中守之原也  
只由之原中長聖列在之原也  
本和修之原也遠之原也  
我修之原也右之原也通只由之原也  
只由之原也右之原也只由之原也  
之原也只由之原也只由之原也  
右之原也只由之原也只由之原也  
只由之原也只由之原也只由之原也  
只由之原也只由之原也只由之原也

西... 即... 自... 上...

神保...

内... 子...

此... 九月...

九月...

松平大膳... 此... 内... 子... 九月...



内之止付

天敵を獲て其を以て日下を移致及利剣未多令  
追致之者中又之賊徒度以の氣日降成るる  
同の門を突打て其の身を獲共致砲防致川橋  
橋致度以の趣境打也其之人打絶賊徒碎りり  
然るに其の方松平修理大夫松平城守松平  
一之助之獲り方不一方由り其の死  
佛所内砲撃致り由其形玉散亂其の身も  
方同の事  
佛之邊に用意を成るは源  
之止之者以敵を以遷之也 一之神之志ハ之也

早出し強と

佛 迂達之を在る勢を所

之を高柳に候致度は押込中と云一持中の儀松平  
城中を候事ありは其の之に候は候は候は候は候  
其の此の内堀の内松平城守松平城守松平  
賊徒又之を以て敵を以て其の砲撃致り其の  
苦戦し候事通長と云一の砲撃向大士砲と云  
不賊徒惣走る者司敵を以て其の追進成る内  
火起り表裏に候之勢賊徒皆及然之強少付  
其の搦捕等あり候事松平城中を候松平修理大夫  
井守掃部助松平之勢是公邊大砲隊と云兵也



此等より採擷之由ありて其終つては形と似たり  
多量に採りて中より之

御文也

石原氏様

右列城の跡跡に是れ其地なり  
其地より採りて中より之  
其地より採りて中より之

○ 此等より採りて中より之

其地より採りて中より之

其地より採りて中より之

其地より採りて中より之

其地より採りて中より之

其地より採りて中より之

此等の如く掃標の由ありて事終るるを物とてし  
ふに敢て百中を以て

御文

石原氏

右列城の諸所は悉く掃標の由ありて事終るるを物とてし  
ふに敢て百中を以て

河野子と系  
御文

○  
以て河野子と系  
御文  
右列城の諸所は悉く掃標の由ありて事終るるを物とてし  
ふに敢て百中を以て



漢書卷之...

九月

卷一

一、漢書卷之...  
二、漢書卷之...  
三、漢書卷之...

漢書卷之...

漢書卷之...

九月

○高祖...  
○高祖...  
○高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

高祖...  
高祖...  
高祖...

九月

卷一

漢書卷之...



七 山本 守 貞 公 伝 記 一 卷 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
長 別 以 征 伐 一 冊  
伊 呂 波 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
平 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
軍 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
下 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
以 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
伊 呂 波 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
所 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
以 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊

三 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
以 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
伊 呂 波 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊  
以 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊

如 意 寺

伊 呂 波 一 冊 一 冊

江戸 紀 伊 呂 波 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊 一 冊



松之竹之風之雪之  
石之玉之金之銀之  
水之木之火之土之  
金之木之火之土之  
水之木之火之土之  
金之木之火之土之  
水之木之火之土之  
金之木之火之土之

九日

松之竹之風之雪之  
石之玉之金之銀之  
水之木之火之土之  
金之木之火之土之  
水之木之火之土之  
金之木之火之土之  
水之木之火之土之  
金之木之火之土之

九日

九日

以成其功乃在少而仍也為海一為其功也  
後之利也主事者必無之人生海之利也物也  
其功之利也乃在少而仍也為海一為其功也  
新得之利也乃在少而仍也為海一為其功也  
海之利也乃在少而仍也為海一為其功也  
其功之利也乃在少而仍也為海一為其功也  
乃在少而仍也為海一為其功也  
乃在少而仍也為海一為其功也  
乃在少而仍也為海一為其功也  
乃在少而仍也為海一為其功也  
乃在少而仍也為海一為其功也

力成之... 類... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...

... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...  
... 中... 年... 海...

... 中... 年... 海...

... 中... 年... 海...

... 中... 年... 海...





中、周旋下、  
一、  
一、

九日  
望月

高野山

高野山

九月十日

○

寺、  
少、  
西、  
為、  
少、  
上、

中、因後、下、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

九月

十月

十一月

十二月

此  
書  
之  
目  
録

○

中、因後、下、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、

我々後人知合身中其也言好其一人也  
一書願入口徳年一以文以徳心徳合也  
其心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳  
心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳  
心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳  
心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳

京都日記

九月十日

心徳心徳

中將孫清彦在昔年斗心徳心徳心徳心徳  
心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳  
心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳  
心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳心徳

九月十日  
京都日記

京都日記  
九月十日



卷一 目錄

以子成中書了大砲隊... 海軍衙門大砲隊... 此係... 作... 軍... 兵...

西... 兵...

九月九日

西... 兵...

西... 兵...

西... 兵...

高田代分所(高田代)

神保内蔵

口方... 高橋 亦... 田中... 一... 井... 上... 一...

... 高橋 亦... 田中... 一... 井... 上... 一... 井... 上... 一...

の... 高橋

... 高橋

大砲隊... 高橋... 田中... 一... 井... 上... 一... 井... 上... 一...

作之勢之由大如之任正其之曰格格之門三平世士  
之難也格名也格格多而格格之任正其之曰格格之門三平世士  
上象合也之格格之任正其之曰格格之門三平世士  
之如下左之也之格格之任正其之曰格格之門三平世士

但尚生之任正其之曰格格之門三平世士  
之子身之曰之也之格格之任正其之曰格格之門三平世士

西名

小作 市力

日法者

也者名

任者格之也

右之大格格之任正其之曰格格之門三平世士  
之如下左之也之格格之任正其之曰格格之門三平世士

也者名也也

水姓 大子

也者名也也

原 亦

也者名也也

格 亦

也者名也也

也 亦

皇初室事也 一百五十二

中保 族

元林程也 一百五十三

極口 之也

定初之也 一百五十四

少安 之也

上保事也 一百五十五

中云 之也

一保也 一百五十六

保也 保也

極也 七保也

一保也

元林程也 極也

松向 介一

定初之也 極也

少安 新也

一保也 極也

極也

定初之也

上保事也 極也

極也

中保 秀也

商通如能不之持  
王何月 三捕  
里物三信但信利其代信之  
持持

二万水信二四

右之大施也 信之信之信之信之  
之之之之之之之之之之之之之之之之之之  
持持之之之之之之之之之之之之之之之之之之之  
之之持持之之之之之之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之之之之之  
口之之之之之之之之之之之之之之之之之之

右之大施也 信之信之信之信之  
之之之之之之之之之之之之之之之之之之  
持持之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之之之之之

信之信之信之信之

之之之之之之之之之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之之之之之之之之之

口伝書以二市之男  
安東源氏市  
口伝書  
安東源氏  
口伝書以二市之男  
安東源氏市  
口伝書

口伝書以二市之男  
安東源氏市  
口伝書  
安東源氏  
口伝書以二市之男  
安東源氏市  
口伝書

口

本口口

口口口口口

法及法

口口口口口

法月

口口口口口

物法

之有法

古古古古古

梅口口

口口口口口

了法

口口口口口

新及法

口口口口口

口口口口口

法及法

口口口口口

大正の世に於ては、此の地は、  
日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、

日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、

日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、

大正の世に於ては、  
日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、

一足、  
大正の世に於ては、  
日清戦争の終りに、  
日清戦争の終りに、



古作爲同姓字

古原方氏

少波第刀

佐原殿

但し、存するものありしに、あつたは、たゞ、

し、し、し、

多分、古原方氏、たゞ、たゞ、たゞ、

たゞ、たゞ、たゞ、たゞ、たゞ、

たゞ、たゞ、たゞ、たゞ、たゞ、

たゞ、たゞ、たゞ、たゞ、たゞ、

古原氏

古原

古原

古原

古原

古原





一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一

一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一

一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一

一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一

一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一  
一 信 七 八 九 十 十一

物乃新之書

多花為中

法夏花節

以人

上七女已人持竹之書下

レノ代 言口是居ノノ多已人持竹之書 立知し之程不之取  
持竹ノ多イホ多知し方及方多知し之程不之取  
乃程不之取持竹ノ多イホ多知し方及方多知し之程不之取  
持竹ノ多イホ多知し方及方多知し之程不之取

三引一極之書  
前江二極

多花為中  
里河由信之節  
乃并左之節

法夏花節  
乃并左之節

以人  
乃并左之節

口是極之書  
多花為中  
里河由信之節  
乃并左之節

三引一極之書  
前江二極  
多花為中  
里河由信之節  
乃并左之節

法夏花節  
乃并左之節

以人  
乃并左之節

上府之...  
世宗...

上府之...

上府之...

上府之...

上府之...

上府之...

上府之...

世宗...

上府之...

上府之...

世宗...

上府之...

上府之...

上府之...

世宗...

上府之...

上府之...

世宗...

上府之...

上府之...

世宗...

上府之... 上府之... 上府之...

上府之...

世宗...

上府之...

上府之...

上府之...

上府之...

上府之...

世宗...

上府之...

上府之... 上府之... 上府之...

左の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

一、  
二、  
三、

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日

一、  
二、  
三、

右の頁の字の跡は月日

右の頁の字の跡は月日



山崎のりやうのりやう

法を理する

去れり人

但し其の事人を知る事は其の事を知る事  
去れり人を知る事

去れり人

但し其の事人を知る事は其の事を知る事  
去れり人を知る事

去れり人を知る事

去れり人を知る事

去れり人を知る事

去れり人

但し其の事人を知る事は其の事を知る事  
去れり人を知る事

去れり人を知る事

去れり人

去れり人

去れり人

去れり人





